

# フロイント産業株式会社

2017年2月期第1四半期  
スモールミーティング資料



(証券コード 6312)

2016年7月

# 第1四半期概況

- ジェネリック向けに機械・化成品ともに増収増益。
- 特別損失250百万円計上するも、純利益は黒字確保。

(単位:百万円)

	2016/2期 期末	2016/2期 第1四半期	2017/2期 第1四半期	前年比増減	
	実績	実績	実績	金額	%
売上高	19,027	3,002	<b>3,912</b>	+909	+30.3
営業利益	1,346	△24	<b>295</b>	+319	-
経常利益	1,394	△0	<b>314</b>	+314	-
純利益	961	△29	<b>48</b>	+77	-
一株純利益	55.74	△1.69	<b>2.82</b>	+4.51	-
設備投資	266	56	<b>107</b>	+51	
減価償却費	321	79	<b>74</b>	△5	
研究開発費	687	137	<b>153</b>	+15	

# 機械部門の動向

- 医薬向け受注は国内が堅調。しかし、FREUND-VECTOR社が下期に偏重。
- 産機は前期比大幅増収。

(単位:百万円)

	2016/2期 期末		2016/2期 第1四半期		2017年/2期 第1四半期	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
受注高	13,112	+5.7%	3,833	+5.1%	3,689	△3.7%
受注残高	7,086	+6.0%	8,900	28.1%	8,318	△6.5%
売上高	13,037	+19.2%	1,826	+1.7%	2,413	+32.2%
医薬品関連	11,444	+15.1%	1,612	+3.6%	1,931	+19.8%
産業関連	1,593	+59.9%	213	△10.7%	481	126.0%
セグメント利益	1,189	+7.3	△9	-	220	-
為替 (円/ドル: +は円安)	121.1	-	119.16	+16.39	115.36	△3.8

# 機械部門:グループ動向

- FREUND-VECTOR社は、下期に売上が偏重と中南米・欧州が伸び悩む。
- 産機向けは計画線のとおり推移。

(単位:百万円)

	2016/2期 期末		2016/2期 第1四半期		2017/2期 第1四半期	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
<b>売上高</b>	<b>13,037</b>	<b>+19.2%</b>	<b>1,826</b>	<b>+1.7%</b>	<b>2,413</b>	<b>+32.1%</b>
<b>単体</b>	<b>7,784</b>	<b>+13.0%</b>	<b>1,113</b>	<b>△24.1%</b>	<b>1,660</b>	<b>+49.1%</b>
<b>FREUND-VECTOR社</b>	<b>4,686</b>	<b>+20%</b>	<b>586</b>	<b>+79.0%</b>	<b>524</b>	<b>△10.6%</b>
<b>フロイント・ターボ社</b>	<b>1,205</b>	<b>+20.6%</b>	<b>210</b>	<b>△11.8%</b>	<b>356</b>	<b>+69.5%</b>
<b>営業利益</b>			<b>△9</b>	<b>-</b>	<b>220</b>	<b>-</b>
<b>【主要子会社】</b>						
<b>FREUND-VECTOR社</b>	<b>293</b>	<b>+0.9%</b>	<b>△44</b>	<b>-</b>	<b>△19</b>	<b>-</b>
<b>フロイント・ターボ社</b>	<b>94</b>	<b>-</b>	<b>△7</b>	<b>-</b>	<b>49</b>	<b>-</b>
<b>【地域別売上高】</b>						
<b>日本</b>	<b>7,668</b>	<b>+15.5%</b>	<b>1,213</b>	<b>△13.5%</b>	<b>1,819</b>	<b>+49.9%</b>
<b>北・中南米</b>	<b>3,491</b>	<b>+31.1%</b>	<b>300</b>	<b>+13.7%</b>	<b>437</b>	<b>+45.7%</b>
<b>欧州・アフリカ</b>	<b>982</b>	<b>+123.0%</b>	<b>235</b>	<b>+335.9%</b>	<b>92</b>	<b>△60.9%</b>
<b>中東・アジア・大洋州</b>	<b>894</b>	<b>△25.3%</b>	<b>77</b>	<b>+3.8%</b>	<b>63</b>	<b>△18.2%</b>

# 化成品部門の動向

- 医薬品添加剤はジェネリック向けが伸長。
- 新規食品は一部ユーザーの生産調整で1Qは増加。

(単位:百万円)

	2016/2期 期末		2016/2期 第1四半期		2017/2期 第1四半期	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
売上高	5,990	△7.6%	1,176	△31.3%	1,498	+27.4%
医薬品添加剤	2,132	△0.1%	478	0.1%	580	+21.4%
食品品質保持剤	2,004	+2.7%	482	△0.5%	473	△1.9%
新規食品	1,853	△22.6%	215	△71.2%	444	+206.5%
セグメント利益	519	+9.6%	81	+1.1%	178	+219.8%
為替 (円/ユーロ: +は円安)	140.35	+10.6	134.00	+6.8	-	-

# 化成品部門:グループ動向

- 医薬品添加剤を中心に増収・増益。
- FREUND Pharmatec社は売却により、今期よりR&Dコストが発生せず。

(単位:百万円)

	2016/2期 期末		2016/2期 第1四半期		2017/2期 第1四半期	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
<b>売上高</b>	<b>5,990</b>	<b>△7.6%</b>	<b>1,176</b>	<b>△31.3%</b>	<b>1,498</b>	<b>+27.4%</b>
<b>単体</b>	<b>5,950</b>	<b>△8.0%</b>	<b>1,176</b>	<b>△31.7%</b>	<b>1,498</b>	<b>+28.1%</b>
FREUND Pharmatec	-	-	-	-	-	-
(輸出売上高)	112	+72.3%	25	+115.1%	32	+28%
<b>営業利益</b>	<b>519</b>	<b>+9.49%</b>	<b>81</b>	<b>+1.1%</b>	<b>178</b>	<b>+219.8%</b>
<b>【主要子会社】</b>						
FREUND Pharmatec	△140	-	△39	-	-	-

(注)2016年2月4日に、連結子会社であったFREUND Pharmatec LTD.の全株式を売却したことに伴い、みなし売却日を2016年1月1日として同社を今期の連結の範囲から除外しております。

# 今期の進捗状況

- 1Q売上高、営業利益、経常利益は社内計画値とほぼ同値。

(単位:百万円)

	2017/2期(予想)		2017/2期 第1四半期		年度進捗率	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	累計額	%
売上高	20,000	100.0	3,912	100.0	3,912	+19.6
営業利益	1,900	9.5	295	7.5	295	+15.5
経常利益	1,900	9.5	314	8.0	314	+16.5
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,180	5.9	48	1.2	48	+4.7

---

---

## 第6次中期計画及び事業環境

---

---



# 政府のジェネリック振興策は想定を大幅に上回るスピード

## 第6次中期経営計画期間の重点施策

**機械部門** …… グローバル展開加速と製品開発強化

**化成品部門** …… 新製品拡充と既存品の競争力強化

政府のジェネリック医薬品普及目標  
60%→80%への引上げ（2020年度末まで）

昨年公表された政府のジェネリック薬普及目標は想定を上回るスピードと高い数値



前期はジェネリック医薬品関連での失注が無いように  
国内の営業資源はジェネリック関連受注に注力

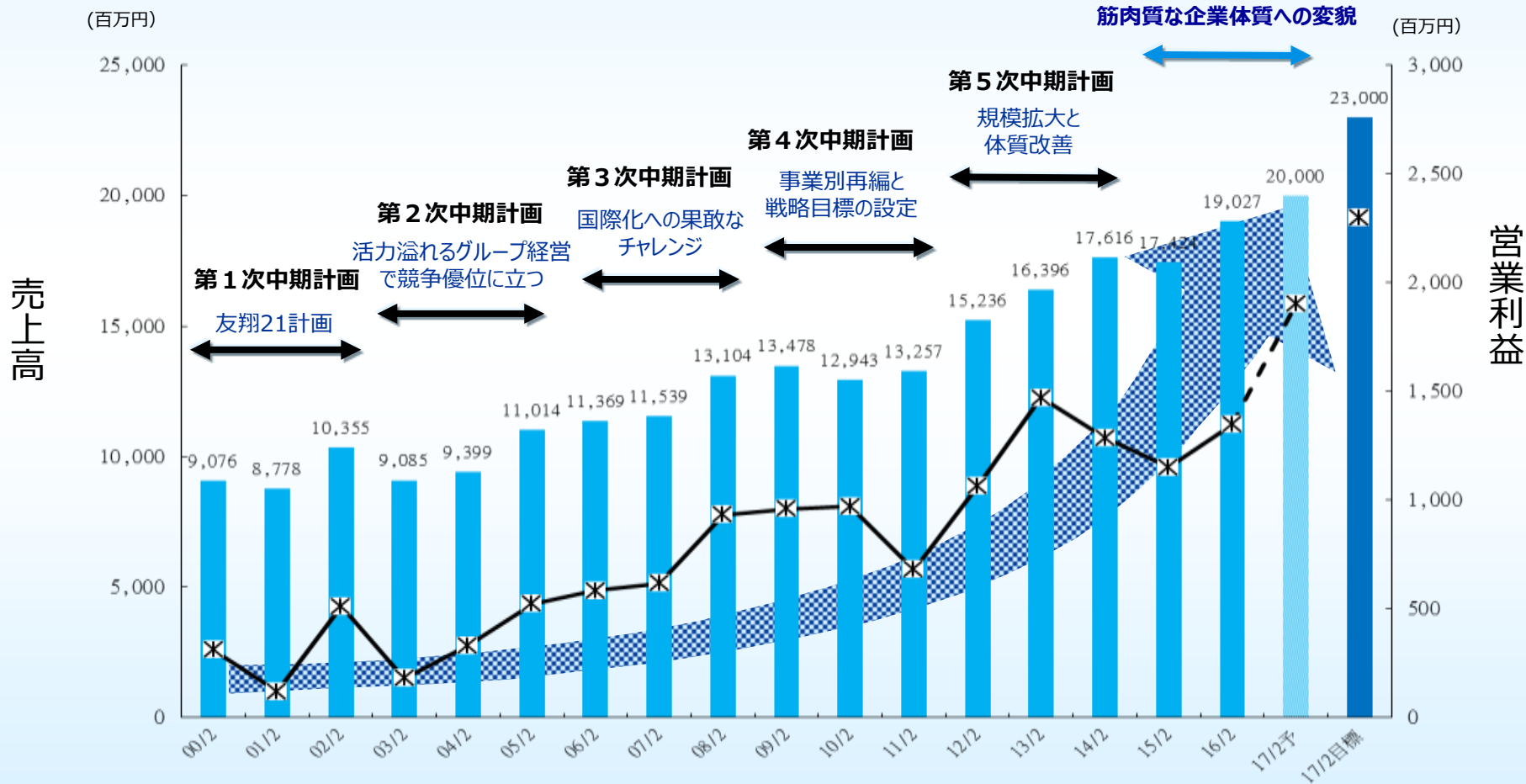
# 第6次中期経営計画 (2015/2期～2017/2期)

〈2017/2期目標〉 ■ 売上高 230億円

■ 営業利益 23億円

(為替前提：USD:100円、€:145円)

第6次中期計画  
創造的成長の実現と  
筋肉質な企業体質への変貌



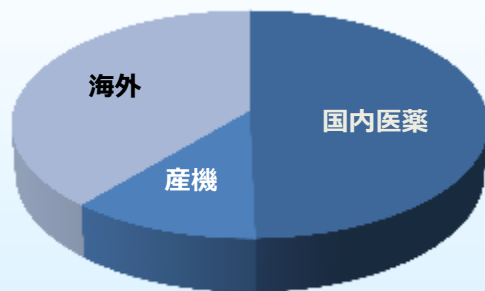
# 第6次中期経営計画期間の事業部別重点戦略

## 機械部門

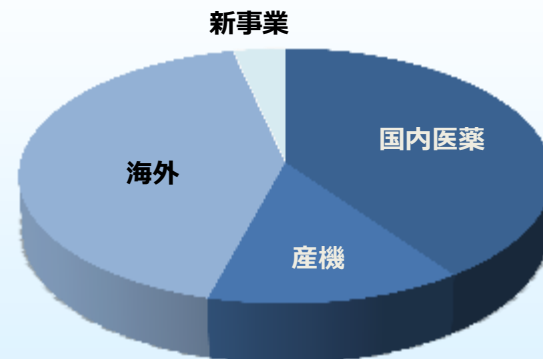
### …グローバル展開加速と製品開発強化

- 国内 : **競争力強化**
- アジア : 中国、インドに戦力集中
- 米州 : 新規顧客開拓と新製品販売に注力
- 欧州 : **スマイリーエリア** (注) (欧州・中東) での販売強化
- 産機 : 健康/食品向け強化と電池業界への本格参入
- 開発 : **市場ニーズにマッチした新製品開発とスピードアップ**
- **生産** : フロイント・ベクターの工場増設と海外で部品生産検討

2014/2期 (前中計の実績)  
110億円



2017/2期計画 (現中計最終年度)  
142億円



注) スマイリーエリア : Freund-Vector社のEU5周辺国・地域の社内呼称

## マーケット・インの発想で開発強化

### ハイコーターオリジナル



- ハイコーターシリーズの海外向け仕様

### オールインタイプ コンテインメントラボ機



- 洗淨から乾燥まで一貫対応  
攪拌造粒機、整粒機、流動層造粒、  
コーティング機、錠剤コーティング機、  
混合機を搭載

コンテインメント装置は、医薬品や毒性のある  
化成品原料を扱う研究開発などの工程で、  
人体への影響が心配される危険・有害物質の  
飛散や人への曝露を防御する。

### 超音波スクリーン式ターボスクリーナー

- ターボスクリーナーへ超音波技術を導入  
TELSONIC社(スイス)との共同開発
- ステンレススクリーン  
金属検知器による破れチェックが可能に
- 従来機との互換性  
最小限の部品追加で従来のターボスクリーナーに  
取付可能



ジェネレーター  
(超音波発生器)

医薬業界にニーズのある  
ステンレススクリーンへの対応

# 第6次中期経営計画期間の事業部別重点戦略

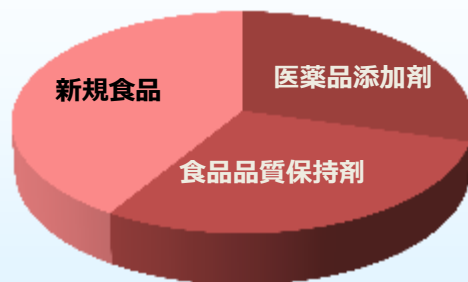
## 化成品部門

### ・・・新製品拡充と既存品の競争力強化

- 医薬品添加剤 : **先発・G E 薬の取り込み**
- 栄養補助食品 : 既存品の受注強化と新規事業開発
- 食品品質保持剤 : **製品ラインアップの拡充と営業強化**
- 開発 : **スピードアップと最低年間で1品目上市**
- 生産 : **生産拠点統合やライン共有化でコスト削減**

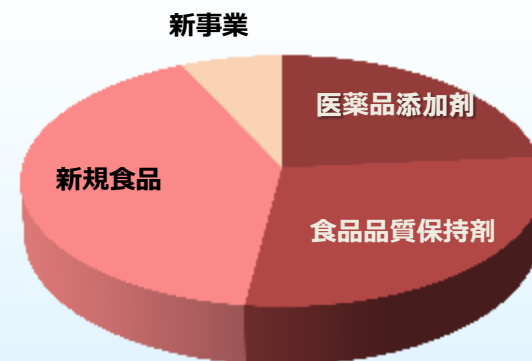
2014/2期（前中計の実績）

66億円



2017/2期計画（現中計最終年度）

88億円



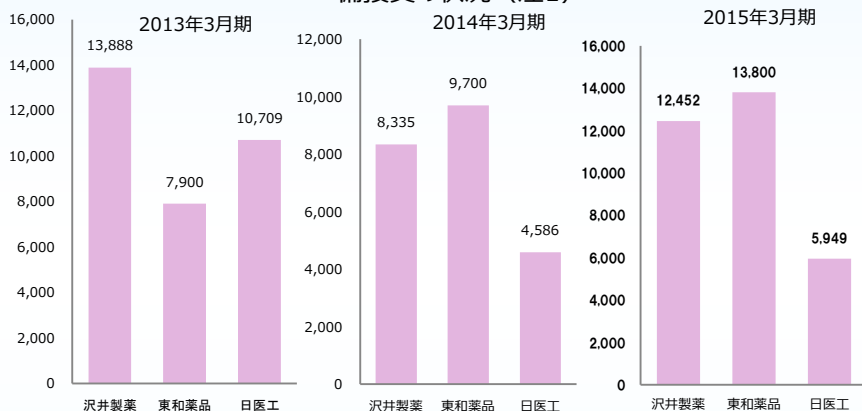
# 後発医薬品業界の状況

ロードマップ対応に、さらに骨太方針への対応が必要

2018 - 2020年度  
1000億錠相当(80%)

2017年度  
840億錠相当(70%)

後発医薬品企業(GE上場3社)の  
備投資の状況(注1)



骨太  
方針  
2015

2015年7月~2021年3月  
他国に例を見ない  
急激な数量目標への  
対応(80%目標)

2013年4月~2018年3月  
ロードマップへの  
対応(60%目標)  
2017年度末 720億錠

流通(変動情報を含む  
バーコード表示対応)の  
ための投資なども必要

2007年10月~2013年3月  
アクションプログラムへの  
対応(旧30%目標)

2014年度実績  
565億錠相当(52%)

2018年頃~  
低分子薬  
特許切れ減少

2002年4月  
【初めての具体的な促進策】

- 後発医薬品調剤加算(2点)の新設
- 医薬品品質情報提供料(10点)の新設

2012年度実績  
435億錠相当(40%)

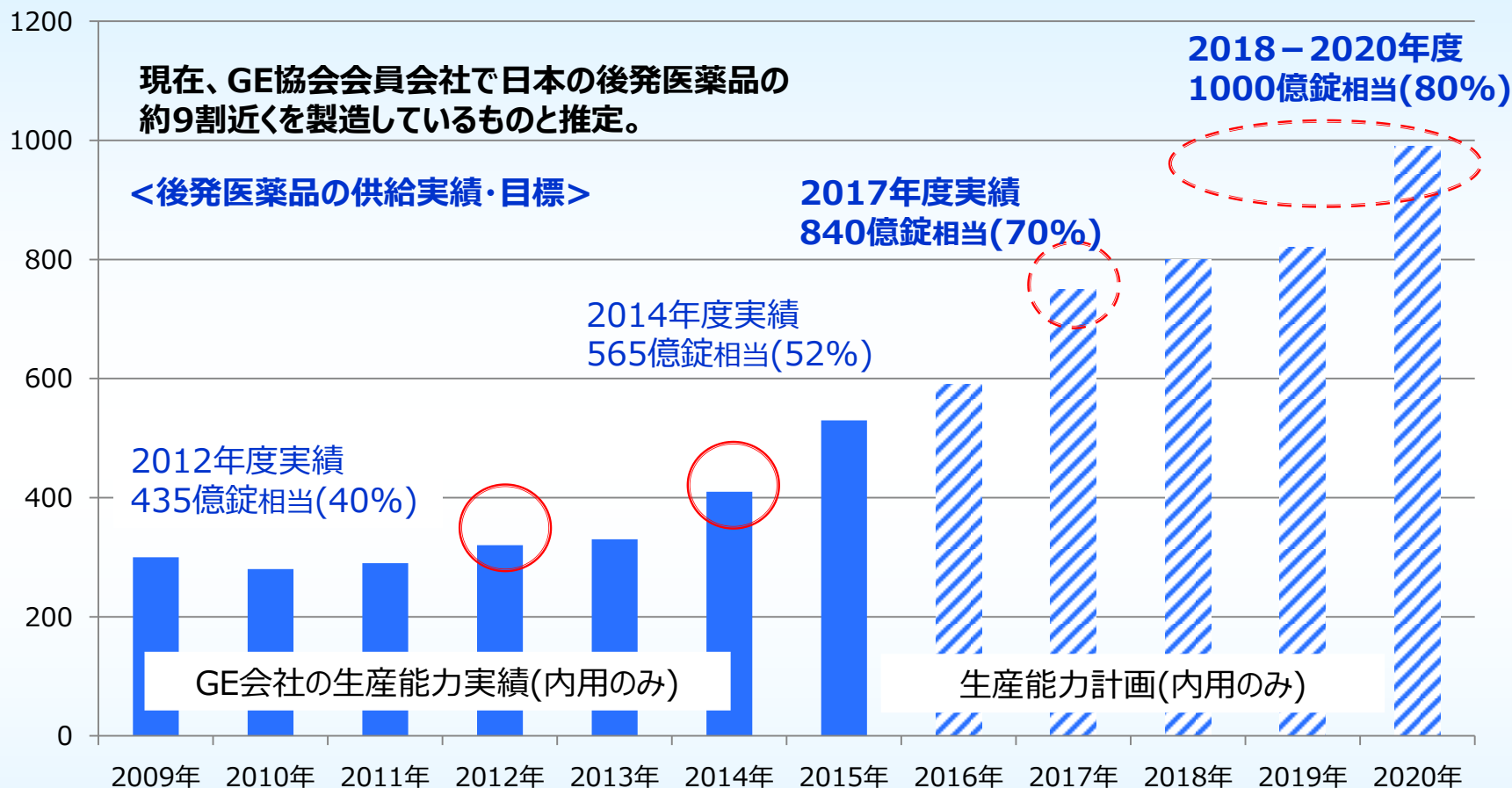


出典: 数字(億錠相当)は後発医薬品(内用・注射・外用)の供給量。2012年、2014年度実績は、日本ジェネリック製薬協会調べ。

(注1) GE薬上場3社の数値は各社公表資料を引用。

# 後発医薬品企業の生産能力と設備投資等の状況

(単位：億錠)



設備投資実績 累計3,216億円

出典：日本ジェネリック製薬協会調べ  
 (2015年7月 安定供給に関するアンケート)  
 内用薬の生産能力(単位：億錠)について、  
 会員会社の回答(実績・見込み)の合計



# 国内の2060年までの高齢化と人口動態の推移



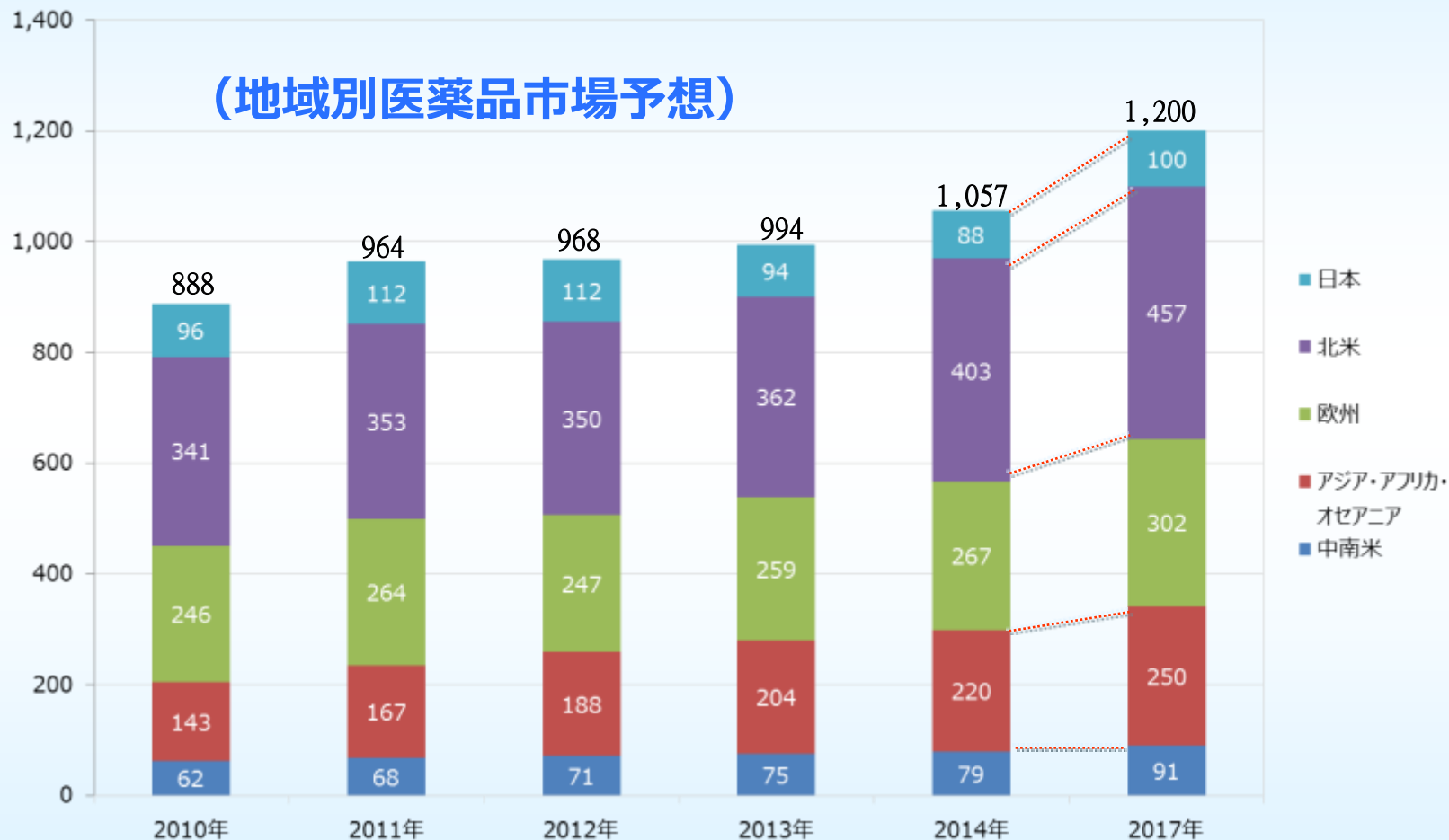
資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

(注) 1950年～2010年の総数は年齢不詳を含む



# 事業環境想定(グローバル)

## 世界医薬品市場は途上国が急拡大



参考：100Bnドル=@100円で換算すると10兆円相当額

(出所) IMS Health Outlook 2015

**〈お問い合わせ先〉**  
**フロイント産業株式会社**  
**コーポレート・コミュニケーション部**

**TEL:03-6890-0767**

**FAX:03-6890-0870**

**E-Mail : ir@freund.co.jp**

**当社IRサイトもご覧ください。 <http://www.freund.co.jp>**

本資料には当社の計画、見通し、経営戦略および経営方針に基づいた「将来予測に関する記載」が含まれております。この「将来予測に関する記載」には発表日時点までに入手可能な情報に基づいた経営判断や前提が述べられております。そのため諸与件の変化により、実際の業績は「将来予測に関する記載」とは異なる結果となる可能性があります。従って本資料における業績予想などの「将来予測に関する記載」が将来に亘って正確であることを保証するものではないことを、ご了解いただきますようお願い致します。なお、掲載内容について当社はあらゆる面から細心の注意を払っておりますが、それらには誤りやタイプミス等が含まれる可能性があります。